

ひまわりからの メッセージ

112号

2020.12.14

NPOひまわりの花内
西濃圏域

発達障がい支援センター

発行人: 中野たみ子

冬の 花火



十二月五日(土)の夜、七時に外で大きな音がしました。何ごとかと思つて外に出てみると、音に伴つて西空が明るくなっています。もしや花火かもしれないと思つて二階にかけ上がりました。おそらく朝倉公園で打ち上げられているのでしょうか。

ドンという音のあとにパツと開く赤や青の花火、するすると空に向かって光が上っていくと見る間に赤い光の列となっていくものや、流れ落ちるように見えるもの、そして、最後には次々と重なり合った大きな花火……冬の夜空を彩る花火にしほし見とれていました。

後にこの花火は大垣青年会議所のメンバーの方々が企画され西濃二市九町で、七時から一斉に打ち上げられたものだと思われました。そして、花火の一つ一つに多くの方が書かれた願いがは

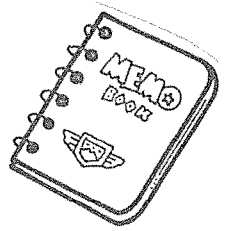
りつけられて、いたそうです。十一ヶ所で、それぞれ七十五発おつが打ち上げられたということですが、中には、新型コロナウイルスの感染の終息を願うものも多くあったことでしょう。日々感染の拡大を知らせる新聞やテレビのニュース、医療の逼迫や重症者の増加など、一人ひとりが自分の身を守るように心がけていても追いつかない状況だと思えるのですが、あきらめめに似た心境の人も多くも思っています。

大人でさえ、この状況ですから、子どもたちの心の状態はどうでしょうか。お母さんと離れられず、しがみついて泣く子や学校へ行きしぶる子など子どもたちの不安のあらわれであると考えざるべきでしょう。不安とか恐怖は、それぞれに感じ方が違っています。「甘えすぎているのではないか」、「その年令になつてそんな行動は変なのではないか」と思い、無理強いをしても不安を増大させるだけかもしれません。夜はしっかり眠っているでしょうか。怖い夢を見ていないでしょうか。子どもたちの心の状態をしっかりと把握する目を私達はもたなければいけないと思つた。昨今でもありません。

庭先には、椿があちこちで咲きはじめです。万両は実をつけましたが、今年には南天の実がとてつもなく貧弱です。自然もどこか異変が迫っているのでしょうか。それでも、一瞬の安らぎを与えてくれる庭の樹々たちです。

記憶 すること

忘れること



最近、本を読んでもすぐに忘れてしまうことが多くなりました。年令と共に記憶力が弱っていくのは当たり前のことでしょうが、本人としては何とも口惜しい限りです。

そこで今回は、記憶のことについて少し書いてみようかなと思いついたのです。というのも、実は最近、記憶のことが書かれている本を読んだからなのですが……

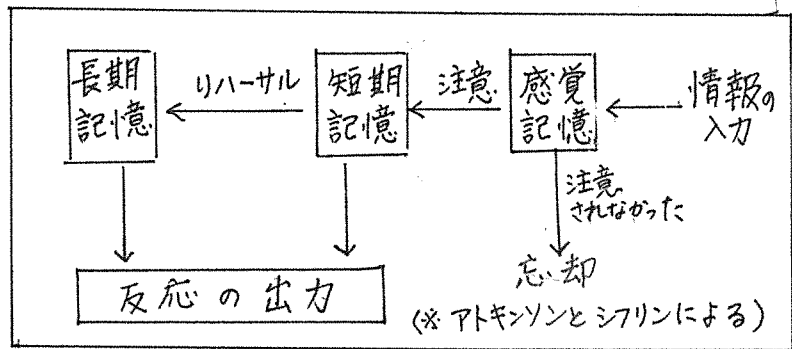
感覚記憶

これは、情報が感覚受容器(耳や目)から入ってきて一時的に保存されるものです。一秒から数秒の間です。そして、注意を向けられた情報は短期記憶となり、注意を向けられなかった情報は忘れさらります。感覚記憶とはじめて聞くことではしたが皆さんは知っておられましたか？

短期記憶

短期記憶は持続十五秒から三十秒位の間だといつことですが、これも注意を向けられなかった場合には、忘れ去られてしまいます。では、短期記憶が長期記憶として

半永久的に保存されるには、どうするのでしょうか。そこにはリハーサルと呼ばれる情報の反復想起が必要になります。



情報入力から順を追って図にしてみると、上図のようになります。以前は、短期記憶は一時的な情報の貯蔵庫と考えられていたようですが、実際には、会話や読書、計算といった情報処理のフィールドとして考えられています。そのためワーキングメモリーとか作動記憶とか呼ばれています。

確かにウェクスラー検査でもワーキングメモリーという指標があります。検査者が言ったことを覚えておいて、頭の中で並べかえをして答を出していきます。でもその記憶はそれを何度も反復したりしなければ、それは短期記憶のまま、やがて忘れ去られてしまいます。

短期記憶内に貯蔵された情報を意図的に、あるいは無意図的に何回も反復して想起起こすことをリハーサルと呼びますが、リハーサルにも二種類あります。同じ情報を単純に反

復する維持リハーサルと、今まで獲得している情報と関連づける精緻化リハーサルがあります。数字の順唱は維持リハーサル、語音整列の課題は精緻化リハーサルと考えられるかもしれません。

長期記憶



さて、では長期記憶として保存されている記憶にはどんなものがあるでしょう。長期記憶でできる容量には限界がないということですが、試験勉強などもしているとき、覚えていたと思っけてもすぐに忘れてしまうことが多く、「もうこれ以上覚えられない」と思うことも多いですね。

記憶の分け方も色々あるでしょうが、まず言葉によって記述することができきる事実に関する記憶と、言葉で記述することができない記憶があります。前者を宣言的記憶、後者を非宣言的記憶と言います。

宣言的記憶の中には、一般的な知識としての意味記憶といつ、どこで、どの様なことが起きたかという経験に関する記憶があります。これをエピソード記憶と言いますが、学校の勉強は主に宣言的記憶を必要としています。

では、非宣言的記憶って何でしょう。大工さんや左官やさん、もそうでしょうが、何かしら技能的なものを考えてみると、分かります。昔から「体が覚える」と言っていた技能の記憶は利

続き記憶といえます。それに、私たちは何かやろうとした時に、昔の経験によってその事がやりやすくなったり、逆に止めておこうとしたりすることがあります。日頃は思いつかないけれども記憶として残っているものを潜在記憶とか、フレイミングと言います。そうしてみると記憶は生活の様々な場にあるわけです。

考えてみると不思議です。私たちが見たり聞いたりしたもののうち、自分が注意をはらわないと、もうその段階で忘れ去られてしまおうのですが、私など、年を重ねてきて、「今日、薬を飲んだらどうか？」とか、「朝食に何を食べたか？」というようなことが心配になってくるわけです。でも子ども達は毎日いろいろな言葉を覚えなくてはなりませんし、それもまた大変ですね。

では、記憶しやすいものと、そうでないものはあるのでしょうか。例えば、言葉の記憶を考えてみると、どうでしょう。単に文字の形や音韻に注意するような記憶と、意味を考えたりの何かと関連づけるようにして覚えるのでは、当然後者の方がその言葉についての記憶保持は長くなるのではないのでしょうか。私たちは日頃、そういう記憶の方法をとっていますよね？、中学生の頃に歴史を覚えるのに、「一八九二(いにくに)創ろう鎌倉幕府」と覚えたり、言語聴覚士の試験勉強で神経の名を覚えるのに、「嗅いで視る動く滑車の……」等と唱えたりしたこともあります。又、漢字の意味から覚えたとということもあると

思います。

何かと関連づけて覚える方が単に言葉だけで覚えるよりも深い記憶として残っていくという点に関して、私はMIM^{ミム}を思い出しました。一年生の教科書の「おもちゃ」と「おもちゃ」「いしや」と「いしや」を文字だけでは覚えられないけれど、視覚と動作を伴うと身につけることができました。要するに「できない」「覚えられない」と決めつけないで、覚えるための手だてをさがってみるということでしょうか。LD学会の連携資格である特別支援教育士の協会が発行している機関誌には「学び方の違う子どもたちに対してどの様なサポートがしていいのか、それを見い出していくのは、私達大人の側の問題なのだろう」と思っています。

クロムバックが提唱した適性処遇交互作用の考え方が教育現場では使われているでしょう。個人差に応じた教育環境を考えていくのは簡単ではありませんが、大切なことだと思っています。

ところで子どもたちの学習にかかわっている先生方やお母さんは、「やっと覚えられた」と思っていたら、忘れてしまっているんです。どうしたら良いでしょうか。と、よくおっしゃいます。そうです。天才でもない限り一度で覚えてしまっても

う決して忘れないなんてことはありません。だからこそ、私たちは何度も再学習をするわけです。記憶は、一度目よりも少し時間を置いてから再学習すると、一度目よりも早く学習が進むというのですが、どうでしょうか。記憶しても忘れるのは当たり前だと思っていたり、子どもたちに声を荒げることもしなくなるのではないのでしょうか。

何だかどうだろうと記憶について書き進めてきてしまいました。記憶を司っているのは、脳の海馬と呼ばれる部分ですが、脳の働きにしてもまだまだわからないことが沢山あります。いや、私が知らないことが多すぎます。けれども知らないことが一つおつ分かってくるとしたら、それはそれで楽しいことではないでしょうか。記憶と忘却。今後はどちらが力を持っていくのか。今後のお楽しみ……と考えておきましょう。

お知らせとお願い



岐阜県も大垣市もコロナの感染拡大が日々広がってきています。センター親の会も三密を避け、十分な配慮はしておりますが、ご家族に感染者がおられたり、ご自身の体調が悪かったりする場合は、出席をご遠慮下さい。

一月十八日 スイトピアセンター創作学習室3

二月八日 かがやき活動室 612